

第209回（令和5年2月19日施行）

基礎簿記会計

第1問〈帳簿への記録対象についての出題〉

本問では、それぞれの出来事が、記帳の対象である取引（簿記上の取引）であるか否か判断することができるかを問うている。簿記上の取引は、資産、負債、純資産（資本）、収益、費用が増減変化する出来事であるが、特に、学び初めには現金やその他の財産の増減を判断することが重要である。

1. 駐車場の賃貸借契約であり、資産等は増減変化しないため、簿記上の取引ではない。
2. 補修工事代金の支払によって現金等の資産が増減しているため、簿記上の取引である。
3. 火災によって建物という資産が減少しているため、簿記上の取引である。
4. プリンターの注文であり、現金等の資産は増減しないため、簿記上の取引ではない。

第2問〈簿記の出発点である仕訳（複式記録）を問う出題〉

帳簿記入のための手続きは、仕訳帳に記入することから始まる。そこでの仕訳とは、取引によって増減変化した資産、負債、純資産（資本）、収益、費用の勘定科目を、金額と共に左側（借方）または右側（貸方）のいずれに記入するかを決定することである。例えば、現金という資産の増加は借方に、減少は貸方に記入する。簿記上の取引は、必ず2つ以上の勘定科目を記録し、仕訳された借方と貸方のそれぞれの合計金額は一致する。

1. 水道料金を支払った取引である。水道光熱費（費用）の発生と現金（資産）による支払いに関する記帳を問うている。
2. 計算機などの消耗品を購入した取引である。消耗品費（費用）の発生と現金（資産）による支払いに関する記帳を問うている。
3. 銀行に預け入れている普通預金の利息を受け取った取引である。受取利息（収益）の発生と普通預金（資産）の増加の記帳を問うている。
4. 現金の出資により運送業を開業した取引である。企業に出資された現金（資産）の増加と、出資額である資本金（純資産（資本））の増加に関する記帳を問うている。
5. 配送品の運送代金を受け取った取引である。運送料収入（収益）の発生と現金（資産）の増加の記帳を問うている。
6. 商品を現金と掛けで購入した取引である。商品（資産）の増加と、代金を現金（資産）で支払い、残額が買掛金（負債）の増加となる記帳を問うている。
7. 商品を掛けで販売した取引である。商品（資産）の引き渡しによって、商品販売益（収益）を獲得し、売掛金（資産）が増加する際の記帳を問うている。

8. 売掛金（資産）を回収した取引である。現金（資産）の増加と、売掛金（資産）の減少の記帳を問うている。

第3問<日記帳（仕訳帳）から元帳への転記に関する出題>

営利企業における帳簿の基本的な形には、日々の取引を記録する日記帳である仕訳帳と、管理すべき単位（勘定）の記入簿である元帳の2つがある。本問では、仕訳帳に記入されている取引を、勘定科目がまとめられている元帳へ転記するという手続きを問うている。適切な勘定科目の勘定口座の借方または貸方に、日付（月日）、摘要、金額を適切に記入できるかを試している。解答に際しては、指定された解答欄に適切な用語または数字を記入することに注意する。

第4問<会計報告書（収支計算）の作成に関する出題>

本問では、会計報告書の作成問題を非営利分野から出題した。すなわち、会計記録をまとめた試算表から会計報告書を作成できるかどうかを問うている。解答欄の会計報告書は、収入と支出を左右に分けた勘定式ではなく、収入を上書き、下に書いた支出を差し引く報告式となっている。前期繰越金に当期の収入を加算し、支出を減算することによって、次期繰越金を算出する過程を表示することができるかが問われる。

第5問<会計報告書（損益計算）の作成に関する出題>

本問では、営利企業における貸借対照表および損益計算書の作成問題を出题し、与えられた元帳の各勘定科目の残高から貸借対照表と損益計算書を作成できるかを問うている。期間損益計算を行う営利企業における会計報告は、期末の財政状態を示す貸借対照表と、当期の経営成績を示す損益計算書の2つの会計報告書を作成することによって行われる。解答用紙に勘定科目をあらかじめ示してあるので、作成に際しては、金額を誤らないように記入し、当期純損益を算出するという手順の理解が重要である。